

「大豆・ひまわり・菜の花プロジェクト」、スタート!

——植物で放射性物質を回収しよう——

5月21日、民間稲作研究所にて、「大豆・ひまわり・菜の花プロジェクト体験会」が開催されました。約70名が、ひまわりの種まきと菜種の収穫を体験し、事実上、プロジェクトの始動、第1弾となりました。

■今年は田植えを断念。ひまわりの種まきを

夏を思わせる暑さとなったこの日、研究所はたくさんの生協組合員さんでにぎわいました。今回はよつ葉生活協同組合との交流会とともに、NPO法人ラムサール・ネットワーク日本[※]の進める「湿地のグリーンウェイブ」の一環として開催。地元のかみのかわ有機農業推進協議会を加えた、3者での共催となりました。

よつ葉生協の富居登美子理事長さんからは、「原発事故以降、わたしたちは放射能のことを思いながら生活せざるをえなくなり、今年は田植えを中止して、ひまわりの種まきと菜種の収穫体験にしました。わたしたちがすべきこと、福島隣の県だからできることを話し合う機会にさせていただければと思います」と、ごあいさついただきました。

稲葉光國代表は、「昨日、栃木県各地の放射線量が発表されました。恐怖心をあおるのもよくないが、無関心でも困る。事実を事実として受け止めることが必要です」と前置きし、放射能は日本のみならず世界中に広がり、日本人が遠いチェルノブイリ事故を心配したように諸外国が日本を注視している、と話しました。



よつ葉生協・富居理事長



稲葉光國代表

■逆転の発想で、大豆で除染する

代表の話は現実に迫ります。「今年の麦は豊作です。まもなく収穫ですが、食品衛生法の暫定基準値の500Bq/kgが守れるか不安です」。麦の放射性物質の移行係数は1.4という資料があり、そうになると収穫後、麦に含まれる放射性物質の値は土壌の1.4倍。土壌の測定値が350~400Bq/kgの場合、麦の測定値は暫定基準値500Bq/kgを上回る可能性があり、出荷停止となってしまいます。

「麦のあとに大豆をまく予定ですが、大豆の移行係数はさらに大きいと言われています」。こちらはすべて廃棄となる可能性が高く、そうになると農家は補償金で生活するしかないと言います。

「そんな屈辱的なことはありません。そこで逆転の発想で、そんなに吸収するなら除染作物として考え、大豆を育てて田畑をきれいにしようと思っています」。幸い大豆もひまわりも菜種からも油が絞れ、セシウムは油には移行しないというデータがあるとのこと。ならば収穫して油を売り、それで生計を立てながら田畑を除染する、



ひまわりの種まき風景

と説明しました。

さらに絞りカスは、放射性物質を拡散しないフィルターを装備した、火力発電併設の焼却炉で燃します。これはつまり、原子力にかわる電力源を供給することになります。そして残った灰をガラスに封じ込め、東京電力に戻す。「これを国の政策として行うべきでしょう」と稲葉代表は言います。

■ひまわりの種まきと、菜種の収穫

少し長いお勉強を終え、いよいよ畑へ。全体を2班に分け、マスクと手袋をして、ひまわりの種まき体験と菜種の収穫体験を交互に行いました。

ひまわりは、きれいに耕された畑に1列に並び、コップに入った種を1粒ずつ土に埋めていきます。汗を拭き拭き作業していた組合員さんは、「田んぼに入れなかったのは残念でしたが、勉強になりました。早く元に戻ればいいですね」。この日、約15アールの畑に種をまきました。サクサクと菜種を収穫していた組合員さんは、「今年で3回目。いろいろなことを教えてくれる稲葉先生の大ファンで、よつ葉さんに感謝です」。暑い中、お疲れさまでした!



菜種の収穫風景

■有機ランチのあとは、田植機に乗車

お昼は、黒米・玄米入りご飯に、大豆油で揚げた米粉100%の天ぷら、けんちん汁という手作りメニュー。どれも有機素材で、けんちん汁3杯おかわりの子どもさんは、「ここのご飯は、いつもおいしいんだよね!」。暑くても5月。木陰に入れば、有機の畑、田んぼからの風が心地よく、疲れも吹き飛びました。



有機食材のランチ

最後に、原発事故で作付け中止となった福島県南相馬市の杉内清繁さんから、「生まれ育った自然環境をこのプロジェクトで元に戻したいと、ここで経験を積んでいます」というお話が。さらにラムサール・ネットワークの安藤よしのさんから、「昨年 COP10 の水田決議で、田んぼの自然環境における役割が大きく評価されました。このプロジェクトで一日も早く回復させたいと思います」というお話をいただき、体験会は無事終了しました。



姿勢を正して正面を見て

でも、子どもたちのお楽しみはこれから。田植機に乗り、操作も体験できるのです。指導員のお兄さんの指示に子どもたちの表情も引き締め、降りると、満面の笑みで親御さんの元に駆け寄っていました。

当研究所では、これを皮切りに、さまざまな団体でプロジェクトを進める予定です。なお当日、研究所周辺の放射線量は、1時間あたり0.08~0.15マイクロシーベルトでした。

この件に関するお問い合わせは、下記へお願い申し上げます。

NPO 法人 民間稲作研究所 代表 稲葉光國

Tel 0285-53-1133 携帯 090-3106-3211

Fax 0285-53-7093 E-mail inaba@inasaku.or.tv

※ラムサール・ネットワーク日本：湿地保護の国際条約であるラムサール条約の理念に基づいて、湿地の保護や回復のために活動する環境保護団体。